



新版

金銀糸の海

下伊勢新

一



遠
1617
1



1617
1

下
伊
北
新



金玉神子極子序

儒佛あり異なれ共理ハ一也
孔子ハ現と視らる色ハ未未終
まへくもくの機小略て切後
琢磨乃道と立身とるまこと色
其規模とする所ハ皆人仁也
忠孝なりん事を思ふの
是金玉と又怪然りあるを恐



まじらず^理と^まく^方後^とま^くま^く
記^しぬ^是と^重玉^神ら^ぬこと
冠^すら^幸一^金玉^人の^西愛^福ら
ゆ^久この^如く^常小^懐く^せら^れ
その^為小^後あ^んう^と之^入小^何う
傳^承此^人の^前小^侍を^得ら^幸と^う
ま^んん^や

元禄十七甲子^神和^陽吉^辰 章^花堂

目録

- 一 木^真れ^玉の^幸
- 二 海^産の^幸
- 三 女^らの^幸

城作織ゆぐ事

四 夕ぐれ糸の山乃事

若狭をぐぐ事

五 血を磨此事

規葉乃霧の事

六 雲のしー廣ぐ事

美の面影ハ天女此降出

山はあかた夜のるり

七 豊列寺念ちの響

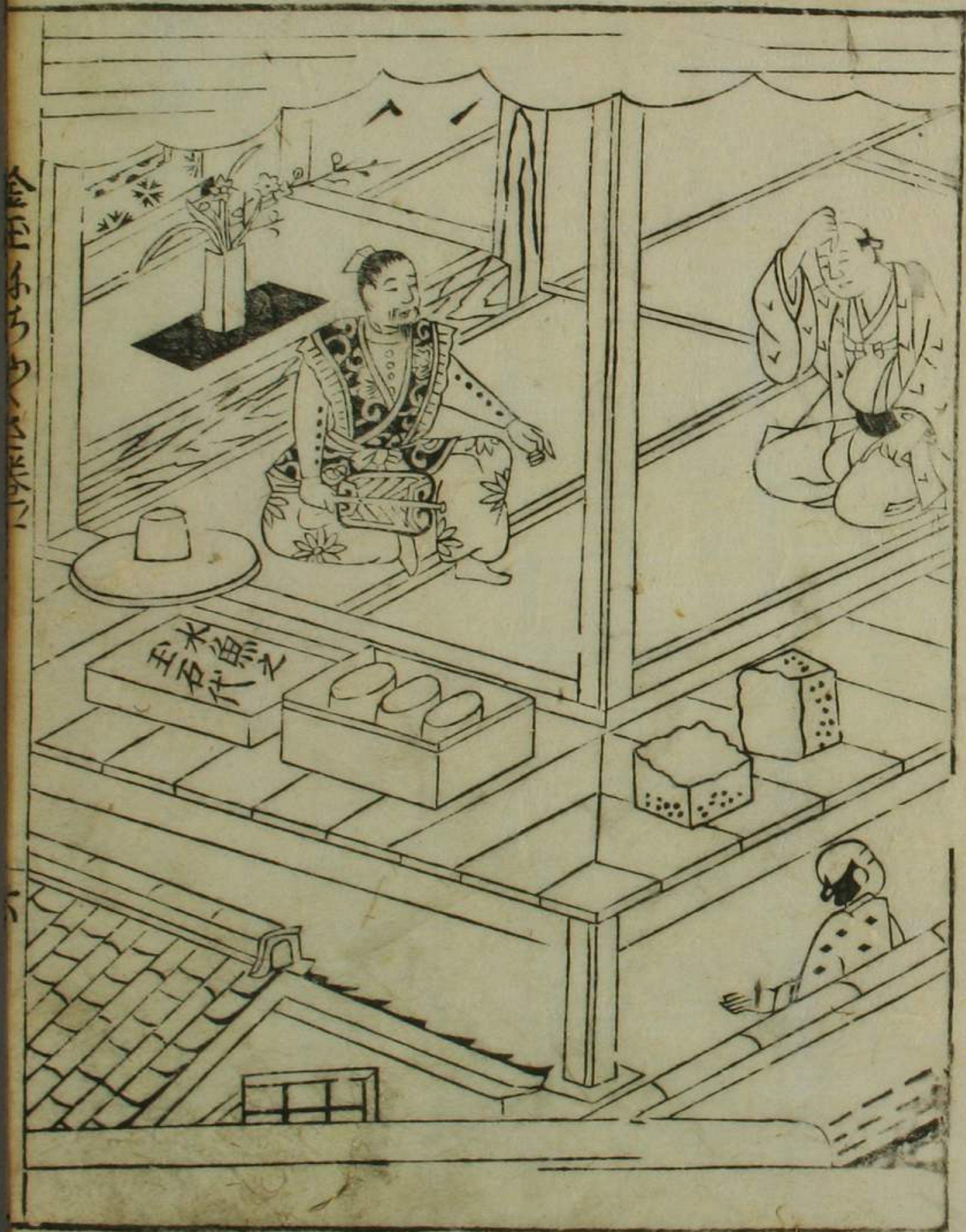
蛙乃地を丸一事

伴吹山乃水神

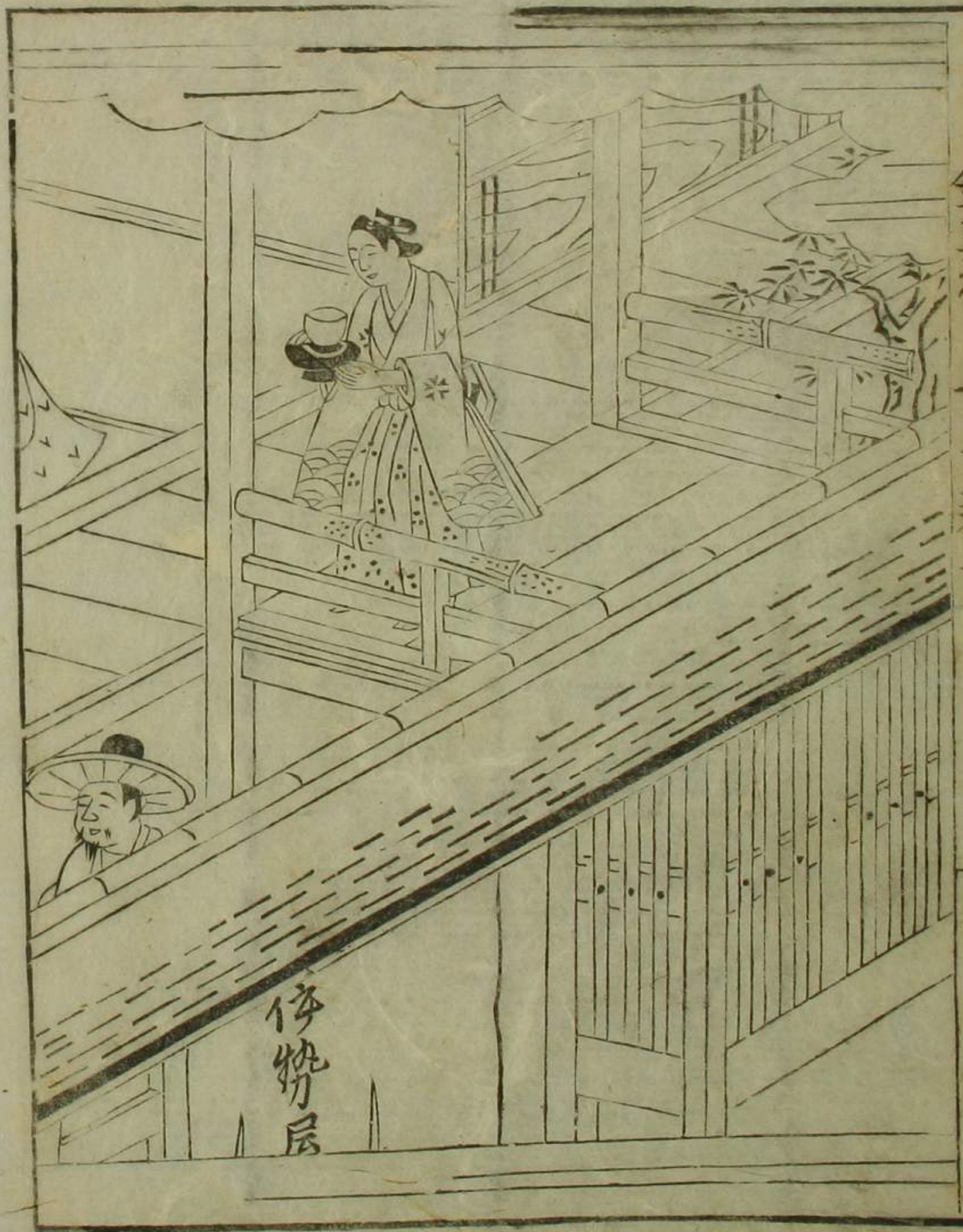
扇此鉄火の事

全三社 廿六の巻
一
つとよあめて老とていふも一せ小童
なり死矣玉こそせう我まはしぬつひよわれ
こそこそとけり人なく多う人のあまきこそ
又さうく人すくなし交を留く勢隣を
何事ふあつらひ常れ驚るも等し
く強玉をさうらふかあけまは瓦礫と月
トさきハ其途おせト其樹を植先
物まハ奇持ぬり行ト一年七條の
町人作せや久らう方へ唐人来てぬみれ
初田説のる伝おぬと書るも月とて見て

あつらひのりかちやうおこあつていふ
おすれぬひのりまじりもけり門あけバ
おすれぬづいしおみおしといはゆら
るふえんれ時おけけおらうといひて
こーの時とんトドしといひ海をん
唐人のあつらうといひて又あるのらあ
なりおくハ口今れぞみのり一せ則
は石の伝おすの百あれし一これ
めてあつたのいふと残もあつたれ
ゆやうふらのま一ていふとよく邪智



金五福



金五福

まがり梅はけ石玉を中てあくハれぞみ
小思ふなりんここのみみ千五百あは
新くねりふ列陣中をあく福が折
ミて済ふあへんに唐人お船の後は
と塔おーおみぐさぞよんでんせは
ハあまのん人孫ぞもしくさぬ常のあ
色あはにさすすまらふおあふてみぐ
せしてんまじともしてあはのあな
くおもとふも後あはたふしてにんよ
りせしてんまじが中あふおあてはら

金百あのことくなら雞二殺あへて
邪智ふまもひ百あのかと死お
ねと後悔してはるのりも後すて後
其後の唐人あへあう新子の千あ
あしてける路玉あふのあうらあ
後橋してあのたのむとと後ろ唐人
あごんとい国となう一紙ける新子屋
の信信あはのぶて来るあははるあ
うんたあなう一はあれむり一千あ
ふはああ一が千あああああああ

金王様御書
のり利其金拵氣せりこそ新しき
箱へのは同じ包の氣三音今くふ
水鳥の玉石代と書付とて
白塔のあゆはるの子あそび
唐人を登りていさうはるを擲水給一分
乃るふおいてみづけはるあり荒野
て後よ世の美玉なりしはふち
面七守め分十方急海なる中ふれたる
と水とぬらみ其中ふ二逆れ盡る
てうごく飛光る中ね——

世ふ玉びなり——王様の知とまろこり
其のありし方金我をばて
極めん事と欲——はるくと薬
ふ事ありては玉とあはれ玉の世ふ
侍ありては命なり——と欲
く侍事玉を世ふまなるいあ
唐人の石代の中あり擲んでこれを
玉なる事と知り其のたを
てのむはと紙破りて
ねるをばてたのり玉の

は今際うたる世も賢人の行くべき
ををれ共能主君とほごまじハ賢人の
とあつらひ事なくはあつたの唐人よ
あつらひごと一存存とあつて杉果な
んぞおれとむご事あつて玉ハ高家
あつたにたごん人とおれとむご事あつ
たうんれおれまじとあつて事とあつ
さまし人とあつて事とあつて事とあつ
聖人れ教誡なれハ今とあつて事とあつ
うなるべ一とあつて人の君たるハ明徳

とあつては唐人れおれとあつて事
珠とあつて事とあつて事とあつて事
はとあつて事とあつて事とあつて事
用ひたる事とあつて事とあつて事
む一とあつて事とあつて事とあつて事
驛信とあつて事とあつて事とあつて事

後列の事

後列の事とあつて事とあつて事
方よとあつて事とあつて事とあつて事
事とあつて事とあつて事とあつて事

さうんふたのふーひあいのいごとあふど
ひやうく一河の篠篔のうけてさんわら比
ふあり出使や役柄せせ付れ隠れは
へ殺只くの細出身へいごぬひのるこ
ちもあられいごその言ハ出身病も
十死一生の折言なきバ難をさせり幸
わ多し難く我々此のこめて海一なる
物徳梅の女油祓んなる髪ついでして
それあまきバもくきづきれいご
とー一病ひいごく此わらぬー見よ

一葉のみあてを油一たれぬ曲を
こそ神あぬ身此此の恨みまこい
いんあて乃陽入送市一その目辰ゆびを
お門てうごんわりのや出油一色紙を
男及此情乃送子あかと傳一く
をばあつか一其後病も治身お中
てきあ温なれバこそさうやんを
と後先合えり一此の杖とさく人
たびく見ぬひよ流り一
の礼ついでなうは人の思一さ

くまろりとして其の門せんを重ればかりとてや
重補ぐくありしとてんて門は秋友を重れ
らでゆきのどけりあり梅一あり一とて
梅のゆきとん好とて色永く、空を病は
梅くきとん秋とてんたてまつりぬま
ゆ一とてん入ありとてせひふと一
とてん四方の山のおとつらうんれは書院の
うとてん庭のよまありしふありぬ梅
のゆきとて梅とてんれとて色とて
れいなるとてん入重補ぐくいゆきのとてん

つらういよとてんありしとてん
一とてん切やくれは後子重補ぐく
いよ一とてんとてん又十日とてん
ありとてんこれとてんとてん
とてん書院梅とてん入とてん
とてんとてん大屋一とてんれとてん
とてん世後とてんとてんとてん
とてんとてん梅のゆきとてん
とてんとてんとてんとてん
とてんとてんとてんとてん

あるドへいりぬぞこひはな〜とよまかた
 けぐ〜そののも都とせりて〜く〜きうけ
 とこへおりし〜中〜た〜あ〜う〜枝のゆい
 と〜胸ゆ〜う〜と〜信を〜枝〜し〜こ〜へ
 ゆ〜て〜ぬ〜を〜あ〜み〜る〜事〜と〜あ〜か〜死を〜致
 こ〜ま〜く〜〇〜て〜死〜び〜て〜あ〜こ〜り〜う〜せ〜し〜中〜枝〜我
 お病のゆ〜ん〜其〜ま〜た〜い〜や〜ん〜ぞ〜ふ〜こ〜げ〜は〜さ
 け〜や〜さ〜ら〜の〜初〜り〜ま〜う〜あ〜く〜た〜は〜〜つ〜え
 と〜く〜ま〜し〜と〜も〜と〜ま〜く〜と〜う〜ら〜事〜ハ〜せ〜ひ〜を〜な〜り〜し〜人
 た〜の〜く〜〜今〜の〜く〜聞〜分〜て〜独〜り〜お〜な〜が〜〜ぬ〜る



時ハ三途の一命立難一 父母のなんのれ
やんをさへし、種は皮靈のたのて自
害体とげ同ト若の意小形とくぐんで
生てり人ふ種り年たのく死しては人へ
男及のりさ後とま二世のちとをさび
くさよ一父母れごらとらつゝなごも
然然のあゆ一と種小たのあつてあま
とを死して何れ益うあらんのりや目教
を種終あまハ進歩のさうかうご一
親のなげさいとを親おうてうあご

さひもふまこと教て教のべ一難く
竊よ屋補とやけかばをさうふ行一
堆れ塔のまへてはうぬれと行らぬにけ
滋小日害ふるび一あふさう種一和尙
あうげあつて種とさうのうふん付財
うをひやうにさだんくせんさくれさ
か一毎うハ弟ためてそれハ血の鬘
のさなり仁系れ送あうあひ難一
おれ進ぞう切親のあさうはふ分た
そかと付ハ才士たらんれつこの送なり

今これにて自害一た毎ふらあふも
は孝ゆをわはに中は紙をたふだ
報くも孝者人ふあふとあふれみめて
事ふ命とすつまはなりあ人れ為ゆを
は紙其入は事とふ紙ふ思ひ流るる
なうく物作れ紙とつんで紙とひつ
せんをなり一た毎ふらあふも
理惟分暇ふ教化ありしう六林の女
ま化惟遠祭明してさそくあり
こ出まや一我身をそ子麻時まじのふ人

の間小迷ひ仁義ふあふ紙死と
け上ハ例来れららるるを紙びせく教
とくまいたあふこ父母一にゆをらあ
て垂ふけらふこららるるに
傷の功とつんで紙幸年二ふれ月の
様教のまふれ紙紙とこのよ紙ふ紙
柳乃紙香と柳紙一して紙さうあや
紙の男及すふ紙の袖ふらう紙紙
ふけらるるを紙紙がららるるあ
あうれらるるまららららららららら



といふにいふに家小あはれにこは家借ふ来
 たりとと法んできハ教備の取帳は目
 と焼くも夜はあはれはきふは錢
 す申て親族の縁と切せのまじり
 と野バねのうらみもこの世はあは
 れなく怒もあはれに備は後生は
 いのこをぬふうけて道心おんこみ
 ひす申ねぬうふけあふぬ後こそ
 奇代の事あはれにぬまじりらくそ
 とあはれ後生はあはれぬらぬらぬ

梅中ふらひ二八ばうらの松入天
松のちみとぬくみまき合のちとあ
すぐいめて母親より小我をくむ
一歳(れい)生とくもと合てさうね熱(ま)
と(ま)新(ま)して愛(ま)者の合あり一松海院
ありさしてけい(ま)く(ま)せう(ま)れ(ま)せ(ま)ん(ま)
の初(ま)あ(ま)く(ま)ら(ま)く(ま)は(ま)松(ま)の(ま)あ(ま)なる(ま)傷
と(ま)け(ま)一(ま)念(ま)の(ま)う(ま)な(ま)う(ま)思(ま)ひ(ま)一(ま)あり(ま)
見(ま)得(ま)の(ま)業(ま)より(ま)ま(ま)し(ま)ぬ(ま)賞(ま)の(ま)こ(ま)ち(ま)ま
と(ま)破(ま)れ(ま)ぬ(ま)ま(ま)し(ま)ば(ま)其(ま)松(ま)つ(ま)う(ま)なり(ま)世(ま)

ふの(ま)や(ま)と(ま)ら(ま)ふ(ま)送(ま)公(ま)ら(ま)め(ま)く(ま)や(ま)夏(ま)取(ま)松
に(ま)そ(ま)ら(ま)く(ま)世(ま)身(ま)此(ま)入(ま)定(ま)世(ま)ふ(ま)せ(ま)れる(ま)者(ま)なり(ま)
年(ま)早(ま)う(ま)ら(ま)ま(ま)の(ま)歳(ま)時(ま)代(ま)は(ま)ら(ま)つ(ま)の(ま)時(ま)あ(ま)り(ま)
き(ま)る(ま)は(ま)あ(ま)り(ま)し(ま)ら(ま)く(ま)て(ま)得(ま)や(ま)ら(ま)ぬ(ま)あ(ま)ら(ま)の(ま)
お(ま)ら(ま)ん(ま)我(ま)往(ま)公(ま)の(ま)代(ま)年(ま)早(ま)う(ま)ら(ま)れ(ま)ふ(ま)る(ま)一(ま)
ね(ま)そ(ま)ら(ま)は(ま)せ(ま)う(ま)ら(ま)ま(ま)一(ま)世(ま)に(ま)さ(ま)そ(ま)ら(ま)る(ま)松(ま)
遠(ま)小(ま)松(ま)う(ま)ら(ま)二(ま)百(ま)七(ま)十(ま)余(ま)年(ま)を(ま)経(ま)たり(ま)其(ま)
松(ま)は(ま)こ(ま)の(ま)死(ま)せ(ま)う(ま)今(ま)は(ま)子(ま)孫(ま)を(ま)世(ま)ふ(ま)の(ま)
と(ま)ら(ま)ん(ま)入(ま)室(ま)の(ま)あ(ま)り(ま)し(ま)ら(ま)ぬ(ま)ま(ま)ら(ま)く(ま)松(ま)
く(ま)と(ま)ら(ま)め(ま)て(ま)目(ま)と(ま)あ(ま)ら(ま)ぬ(ま)ん(ま)て(ま)松(ま)の(ま)

松のちみとぬくみまき合のちとあ

